

気体の状態方程式

$$P V = n R T$$

P : 圧力 (atm) V : 体積 (ℓ) n : モル数 (mol)
R : 気体定数 (atm・ℓ / K・mol) T : 絶対温度 (K)

気体の状態方程式の R は定数である。残り 4 変数のうち、いくつかを固定して、残りの変数の相互関係を考えてみる。

$$T = \left(\frac{V}{nR} \right)_{\text{一定}} \cdot P$$

n, V が一定ならば、T は P に比例する。

金星の気圧は 90 気圧だから、金星は高温なのです。

二酸化炭素濃度とは関係ありません！。